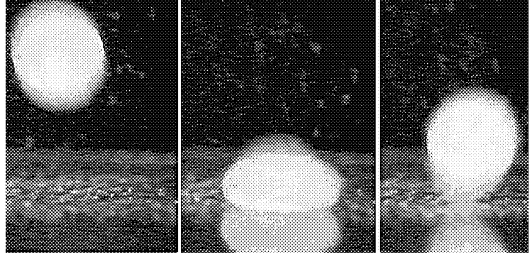


科学技術振興機構の渡辺宏臣研究員と九州大学の高原淳教授らは、床に落とすとゴムまりのように弾む水玉を作ることに成功した。表面に特殊な微粒子をまぶしてあり、直径は最大で5^{ミリ}。雨粒よりも大きく、水面に浮かせることもできる。水の性質の研究に役立つと考えている。

研究チームが使った微粒子は、水をはじく性質の強いフッ素を含む物質で、粒径は0.5〜1^{ミクロン}（約は100万分の1）程度。スプーンの上に微粒

弾む水玉、まりのように

水玉が板の上でゴムまりのように弾む（左から右）



子を敷き詰めておき、水滴をたらず。微粒子は水

と大と 表面に微粒子まぶす

九 大 と
科 技 振 興 機 構

滴の表面全体にくっついて覆う。

実験では最大で直径5^{ミリ}の水玉ができた。水の代わりに磁石の性質を持つ液体でも玉を作り、磁石に吸い付けることができた。

できた水玉を使えば水の未知の特性を明らかにできる可能性があるという。また、開発した微粒子の技術を応用すれば、液体の上で液体を輸送したり、粘性の高い液体を玉にして運びやすくなり、玉にすることができるようになるとみている。